課長

なぜ、介護にはマイナスイメージがあるのだろうか。

私には、介護の道を志した経緯もなければ、介護の知識も技術もない（偉そうに言う事ではないが）。当然介護職員として現場に入ろうとすれば、とてもこなしてはいけないだろうと思っている。それが出来ている介護職員はとても素晴らしく尊敬する。特に笑寿苑の職員は、技術、知識も然ることながら、ご利用者の「笑顔」を引き出すため、日々の努力が素晴らしい。とてもよいチームワークがあると思う。
私には常に思っていることがある。介護者の立場としてではなく、介護を受ける側の立場でいようと。ご利用者はもちろんのこと、家族としてどういう対応が期待されるのか、そういう視点で関わっていきたいと思っている。
介護のプロはたくさんいる。自分以外殆どと言ってもよいだろう。
ただ、介護職として経験や知識を積み重ねていけばいくほど、こうあるべきだという理想と現実のギャップに悩まされ、壁にぶつかることがあるかもしれない。その悩みや思いを共感することは難しいかもしれないが、客観的な立場からそういったときのサポートができるようになりたい。また、介護の常識と一般常識がかい離しないように見守っていきたい。
排泄・食事・入浴といった介助、すなわち技術的な介護は、肉体的も精神的にも大変に負担となることであるが、覚える、効率よくこなすといったことが中心となるだろう。ここにマイナスイメージの要因があるかもしれない。
しかし、人との関わりに関していえば介護サービスだからという特別なものではない。すべての仕事において人とのコミュニケーションは存在しており、認知症への対応などの個別の専門性を除いては、社会人として極当たり前の対応でよいのではないかと思う。
特に人生の大先輩（ご利用者）とは、尊敬の念、親しみをもって接する。親しみやすさと馴れ馴れしさは違うということを念頭に置いておきたい。

笑寿苑に訪れる人（家族、実習生等）の多くが、笑寿苑は良いところだと言ってくれる。それはお世辞ではなく、感じたままに出てきた言葉であると信じている。
近年特に積極的に行われている勉強会、ケース検討会、委員会等の取組みを見ていて、笑寿苑は本当にすばらしい施設であると実感できる。

最初の問、「なぜ、介護にはマイナスイメージがあるのだろうか。」に答えるとすれば、こういった素晴らしい施設の様子や取組み、想いを外部にうまく発信できていないところにあるのではないかと思う。良さを知らないだけである。
笑寿苑の素晴らしい取組みを“ありのまま”にうまく発信する事ができれば、介護という仕事の持つ魅力や感動を必ず伝えることができると思う。